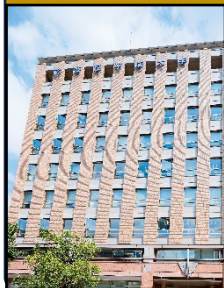


傍観行動の低減からいじめ防止を目指す心理教育的プログラムの開発と効果検証



【池袋キャンパス】健康メディカル学部 心理学科 准教授

中村 玲子 Nakamura Reiko

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード : いじめ防止 ・ 傍観行動 ・ ロールプレイ ・ 心理教育的プログラム ・ 中学校

研究の概要

SDGs 目標 16 : 平和と公正をすべての人に

SDGs 目標 17 : パートナリシップで目標を達成しよう

いじめは現在もなお深刻な問題であり、いじめの防止やいじめへの対処のための対策が求められています。

いじめの減少困難や助長の要因のひとつに傍観者が挙げられており、傍観者は中学校で増加することも指摘されています。これまでにいじめ防止を扱ったプログラムが開発され、実施されておりますが、本研究はいじめの傍観行動に着目した心理教育的プログラムを開発し、その効果を検証しているものです。中学生を対象に、いじめを見た生徒がいじめの停止につながる行動をとれるようになることで、いじめの減少を目指す心理教育的プログラムを教育現場の先生方と開発し、その効果を検討することを目的としています。

本プログラムには、いじめの発生予防だけでなく起こったいじめの制止が含まれています。いじめの傍観行動に着目し、いじめを見た生徒がそれを傍観せずになんらかの対処ができるよう、ロールプレイを用いて学習します。

これまでの研究により、本プログラム実施前よりも実施後のほうが、①傍観行動をとらないことへの自己効力感が高まり、②いじめ否定の規範意識が強くなり、③いじめ加害傾向は低くなる可能性が示唆されています。また本プログラムを構成する、①心理教育と、②ロールプレイを用いた学習が共通していれば、実施する教員や対象生徒、ロールプレイの提示場面が異なってもこれまでと同様の効果が認められることも確認されています。

＜プログラムを実施した中学校の先生方の声＞

- 教員と心理職が協働し、それぞれの専門性をいかして授業（プログラム）を行うことができる
- ロールプレイを取り入れることで、生徒がより具体的に考えることができる
- よかった点についてフィードバックすることで、生徒に自信がついたり、行動のレパートリーを増やせたりするのではないかな
- あまり重苦しい雰囲気ではなく、前向きに取り組みやすい

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

本研究の結果より、スクールカウンセラー等の心理学の専門家と教育現場の先生方が協働して本プログラムを実施することにより、本プログラムがもついじめの防止への効果がもたらされ、確認できる可能性があります。

また、中学校におけるいじめ防止の取り組みや授業の一環として活用できます。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上 QR コードの教員紹介からご確認ください）

【科研費】

- ・（基盤研究 C(17K04365)）「傍観行動の低減からいじめ防止を目指す心理教育的プログラムの開発と効果検証」

【学会発表】

- ・「いじめ否定の規範意識に着目した傍観行動の検討」
- ・「共感性に着目した傍観行動の検討」